

## 高等学校課題研究ハンドブック Chapter 7 b

### 文章や引用の方法について後編

#### 7-4. 文献・資料の扱い方について～引用～

##### なぜ“引用”を明記しなければならないのか？

プレゼンやレポートで文献（書籍や論文、雑誌・新聞記事、政府発表のデータや報告書など）を紹介する際、「どこからどこまでが他人の意見」で、「どこからどこまでが自分の意見」であるのか、あるいは「この資料の出典はどこから得られたものか」について、明白に書かなければなりません。他人の意見や他の方からの資料を使えば、必ず「引用」であることを明示する必要があります。さもないと、他人の文章を勝手に自分の文章とした、あるいは他人が集めた資料を勝手に利用した「盗作」とみなされ、レポート自体が評価されなくなります。いわゆる“コピペ”は論外ですが、それだけでなく引用を明示しなければ違反行為となります。

対照的に、きちんと引用することで、読者や聴き手は「この発表者は、このあたりの文献まで押さえていて、きちんと勉強しているな」とむしろプラスに評価します。このようにレポートやプレゼンでは、**引用のやり方そのものが評価を左右しかねない**と言っても過言ではありません。

##### 本文中にどのように引用すればよいのか？

「引用の方法」はいくつもあります。だいたい以下の3つ、**直接引用**、**間接引用**、**脚注**などの使用に分かれます。このほかにも様々なやり方があるので、勉強して下さい。例えば、河野（2002）の『レポート・論文の書き方入門』には詳しい解説があります。

- (1) 出典の文章を**直接引用**する：1～2行ぐらいなら、引用した部分を**カギカッコ**（「」）でくくることで、引用を表します。長い引用の場合は、前後を1行ぐらい空けることもあります。もっとも、引用があまり長すぎると「切り貼りに過ぎない」とみなされ、評価が低下しかねません。あくまでもごく短い文章が原則です。

例：あなたが、井村裕夫という人が2000年に出版した『人はなぜ病気になるのか 進化医学の視点』という本の225頁に記載されている文章、「人はなぜ病気になるのか、という問いに対しては、ほとんどの病気は遺伝素因と環境因子の関わり合いによって起こるとするのが、医学的に見て正しい答えであろう」を引用したいとします。その場合は、以下のようなスタイルが一般的です。

- ①井村（2000；225）は「人はなぜ病気になるのか、という問いに対しては、ほとんどの病気は遺伝素因と環境因子の関わり合いによって起こるとするのが、医学的に見て正しい答えであろう」と述べている。
- ②井村は「人はなぜ病気になるのか、という問いに対しては、ほとんどの病気は遺伝素因と環境因子の関わり合いによって起こるとするのが、医学的に見て正しい答えであろう」と指摘している（井村、2000；225）。

- (2) **間接引用**：引用文献の文章を**書き換えて引用**する：この場合は、本文中に出典について「著者名(出版年)」などを標記しますが、以下のように文章に工夫が必要です。

③井村（2000、225）は進化医学的な視点から、病気の原因のほとんどを遺伝的素因と環境因子の関わり合いと結論している。

④進化医学では、病気のほとんどは遺伝的素因と環境因子の関わりによって起こるとされている（井村、2000、225）。

（3）引用文献を脚注などで明示する：この場合は、以下のような引用になります（本頁の脚注1を参照）。

⑤進化医学的な視点から言えば、病気のほとんどは遺伝的素因と環境因子の関わりによって起こるとのことである<sup>1</sup>。

（1）（2）の場合、レポートの巻末に引用文献表を付け加え、引用文献についての書誌データを明記しなければいけません。後述の引用文献表の作り方をご参考にして下さい。

### Box 7-1. 注について

「注」を付けるのは、（1）本文の内容に直接関係のないものや本文中に書くと文章の流れを悪くしてしまうような場合や、（2）内容をさらに詳しく説明するなど、その事柄について読む人がさらに詳しく知りたい場合等があげられます（河野、2002）。

こうした注は、本文中の該当部分にナンバリングして同じ頁の下部に書く「脚注」と、レポートの最後、つまり本文と文献表の間に書く「後注（文末脚注）」が一般的です（注には、このほか文献対照注、割注、簡易注、頭注、傍注等があります）。最近ではワープロソフトの脚注・後注の機能を使用すると、追加や削除で自動的に番号が通し番号に変わるので便利です（MS社製のWordの場合は「参考資料」→「脚注の挿入」あるいは「文末脚注の挿入」を利用して下さい）。

## 7-5. 引用文献および引用文献表の作り方

先に触れたように、文献の記載法には①脚注（Footnote）と②文献表（Reference）があります。ワープロソフトの発達で、脚注を付けるのも容易になりましたが、ここでは文献表を紹介しましょう。きちんとした文献表はそれだけで論文の優秀さを示します。

以下、このハンドブック全体の引用文献の表記法を紹介します。なお、英語文献はAPA（American Psychological Association）の記載法に準拠していますが、もし、演習を担当する先生方から異なる指示があれば、先生の指示に従って下さい。（詳しくは、<http://library.kwansei.ac.jp/ksc/utilize/howto/pdf/bunkenzyohoyomikatakasc.pdf>などを参照）。

**1. 単行本（日本語）：**①著者名（編者名、訳者名、著作者としての団体名）、②刊行年（かっこでくる）、③書名（二重カギカッコでくる）、④出版者（日本国内では出版地は省略します）、⑤頁数（本の一部の章などの場合）の順に記載して下さい（下記参照）。なお、本の一部の章だけをとりあげて紹介する場合（下の三番目）、最後にその章のページ数も記載して下さい。

小浜裕久『ODAの経済学』日本評論社、1992。

角野幸博「第2章 都市デザインとエリアマネジメント」関西学院大学総合政策学部編『都市、環境、エコロジー』関西学院大学出版会、2017、pp. 65-107。

<sup>1</sup>井村裕夫『人はなぜ病気になるのか 進化医学の視点』、2000、p. 225。

2. **日本語に翻訳された単行本**：以下のように、翻訳された書名を優先する場合と、原題を優先する場合があります。(注) 原典はイタリックにするか、下線をひいて下さい。

P. ボルカー・行天豊雄『富の興亡－円とドルの歴史－』(江澤雄一監訳) 東洋経済新報社、1992。

Volker, P. and Toyoo Gyoten (1992). *Changing fortunes*, New York: Times Books, 1992. (江澤雄一監訳『富の興亡－円とドルの歴史－』東洋経済新報社、1992)

3. **日本語の学術雑誌などに掲載された論文**：①著者名、②論文名(一重カギ〔「〕でくくる)、③雑誌名(二重カギ〔『』でくくる)、④雑誌の巻・号、⑤論文の刊行年、⑥頁数の順に記載して下さい。

小寺武四郎「SDRの開発金融リンクについて」『経済学論究』28(2)、1974、pp. 1-176。

4. **単行本(英文)**：ここではAPA(American Psychological Association)での記載法に準拠します。①著者名は姓を書いてから、コンマ[,]をおいて、名またはイニシャル(省略記号のピリオドを付ける)、②出版年(かっこでくくる)、③書名は最初の単語を品詞の種類にかかわらず、大文字で始める。副題も含めて“イタリック体”での印刷を示すアンダーラインを引く(直接イタリック体にしてもかまわない)、④出版地、⑤出版社の順に記載する。

Keynes, J. M. (1936). The general theory of employment, interest and money. London: Macmillan.

5. **英文の学術雑誌に掲載された論文**：①著者名、②雑誌の出版年、③論文名、④雑誌名(アンダーラインを入れて、コンマを付ける)、⑤雑誌の巻・号、出版月(それぞれの間にコンマが必要)、最後にピリオドをうつ。

Akerlof, G. (1970). The market for 'lemons': Qualitative uncertainty and the market mechanism. Quarterly Journal of Economics, 84 (3), 488-500.

6. **英文学術書・論文で、著者が複数の場合**：第1著者は先に書いたとおりで、第2著者以降は名ないしイニシャルを先に書き、姓を書きます。そして、最後の著者の前に and を入れるのが普通です。例えば、

Arrow, K. J., and F. H. Hahn (1971). General Competitive Analysis. San Francisco: Holden-Day.

7. **調査報告書**：①研究代表者名、②タイトル、③機関名、④刊行年の順に記載して下さい。

米本秀仁『社会福祉専門職における現場実習とこれからのあり方に関する調査報告書』平成13度「長寿・子育て・障害者基金」福祉等基礎調査(社会福祉・医療事業団委託研究)、北星学園米本研究室、2002。

## 7-6. 引用文献表

レポートの巻末につける**引用文献表**では、著者の姓の50音あるいはアルファベット順です(日本語文献と英語文献が混在する場合はアルファベット順がよいでしょう)。著者名がない場合、文献表における位置は、題名のアルファベットで決めます。なお、2行にまたがる場合は、2行目の始まりをインデントで数文字分あけて下さい。以下は、参考にあ

げた文献を引用文献表の形にまとめたものです。

- Akerlof, G. (1970). The market for 'lemons': Qualitative uncertainty and the market mechanism. *Quarterly Journal of Economics*, 84 (3), 488-500.
- 角野幸博「第2章 都市デザインとエリアマネジメント」関西学院大学総合政策学部編『都市、環境、エコロジー』関西学院大学出版会、2017、pp.65-107。
- Arrow, K.J., and F.H. Hahn (1971). *General Competitive Analysis*. San Francisco: Holden-Day.
- Keynes, J.M. (1936). *The general theory of employment, interest and money*. London: Macmillan.
- 小寺武一郎「SDRの開発金融リンクについて」『経済学論究』28(2)、1974、pp.161-176。
- 小浜裕久『ODAの経済学』日本評論社、1992。
- Volker, P. and Toyoo Gyoten (1992). *Changing fortunes*, New York: Times Books, 1992. (江澤雄一監訳『富の興亡—円とドルの歴史—』東洋経済新報社、1992)
- 米本秀仁『社会福祉専門職における現場実習とこれからのあり方に関する調査報告書』平成13年度「長寿・子育て・障害者基金」福祉等基礎調査（社会福祉・医療事業団委託研究）、北星学園米本研究室、2000。

## 7-7. インターネットからの情報

Webから得た資料もまた、きちんと記載しなければなりません。参照・引用ルールは確立していません。MLA styleに準拠すれば、①（記載されていれば）著者名、②タイトル、③データベースやサイトの名称、④そのデータベースやサイトの管理者、⑤URL、⑥アクセスした日（閲覧日）などの記述になります。閲覧日を記述するのは、Webサイトが更新されることがあるため、アクセスした日付を明記する必要があるからです。

以下は著者名や公開の日付などが明記されている場合の引用例です。

- Koehler, H (2000), "The IMF in the Changing World" (August 7, 2000), IMF Official Site. <http://www.imf.org/external/np/speeches/2000/080700.htm> (閲覧日：2017年10月16日)
- 宮澤喜一（1998）「第53回IMF・世銀年次総会における宮澤大蔵大臣総務演説」（平成10年10月6日於：ワシントンD.C.）、財務省公式サイト、[http://www.mof.go.jp/international\\_policy/imf/annual\\_meeting/1998st.htm](http://www.mof.go.jp/international_policy/imf/annual_meeting/1998st.htm) (閲覧日：2017年10月16日)

Webでは著者や公開日付が明記されていない場合もありますが、URLや閲覧日は必ず明記します。

## 7-8. 引用文献

- 本多勝一『中学生からの作文技術』朝日新聞社、2004。
- 関西学院大学総合政策学部編『基礎演習ハンドブック改訂新版 さあ、大学の学びをはじめよう！』関西学院大学出版会、2012。
- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門第3版』慶應義塾大学出版会、2002。
- 高橋昭夫『すぐに使える！ ビジネス文章の書き方』PHP研究所、2007。

2018年3月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部